



佐藤栄佐久氏  
(郡山の自宅で)

# 語る!

5

前福島県知事 佐藤栄佐久氏

特別  
寄稿

大学時代と  
60年安保

そんなわけで、私は、大学へは休学の届を出して、一旦、郡山に戻りました。このまま、ただ何となく大学を続けるよりは、こちら辺でじっくりと人生を捉え直すことの方が、私にとっては大切と思われたからです。両親は何一つ言いません。

## 権力のあり方に強い憤り 1年休学し、人の道を探る

「そうか」と、黙って受け止めてくれました。ただ、「遊んでいるのはお前ひとりだから」と、祖父嘉吉の鎌先温泉行きの付き添いを命じられて、祖父と一緒に鎌先温泉で一カ月も湯治することになりました。良い機会だからこの際徹底的に本を読もうと思ひ、抱えきれないほどの本を持って行ったのですが、祖父が、ポツリポツリと話す、生い立ちからの苦労話が殊のほか面白く、結局、おじいさんの話に聞きほれて、ろくすっぽ読まないでしまったのです。零落したけれど、かつては守山藩の御用も務めていた「合羽屋」という由緒ある商家に生まれた祖父は、十二歳になるとすぐに、手に職をつけようと郡山の呉服屋さんに奉公に出ます。そこで嘉吉は店の掃除から始まり、足袋や着物羽織、袴も任せられる一流の仕立て職人にと育ったのです。

ところが、折から郡山に入ってきた洋服に「これからは洋服の時代になる」と、ピンときた嘉吉は、見本として借りた洋服をほどこいて、袴がどうなっているか、袖はどのように付いているか、暗記するほど丁寧に見ては縫い直したそうです。そして、その繰り返しをしながら、自己流で洋服の縫製技術を身につけたのだと言えます。

### 祖父の努力に感動

洋服屋も洋裁学校もない時代ですから、祖父の先を見る目と、ひたむきな努力には正直感動しました。その時、私は「学校を卒業して就職したら、オレがじいちゃんの伝記を本にするから」と約束したのですが、その約束は、十二、三年後、じいちゃんの米寿記念として孫たちの集まり(いとこ会)の協力を得て、何とか果たすことができました。

でしたし、私の信奉してきた民主主義が、時の首相、岸信介氏によってあっさり踏みこじられる事態にも、激しい怒りを覚えました。

民主党の幹事長を務めており、私が、「知事は県民が選ぶもの」と、悪態をついた相手でした。

### 安倍氏と不思議な縁

岸さんといえば、私が参議院議員になって一年が経った頃でした。ある日、同じ参議院議員の田英夫さんから、「岸元総理の話をお聞きをやるから来てよ」と誘われました。たくさんの議員が来るだろうと思ひながら、私自身は六〇年安保の頃のことに興味があり、話を聞こうと出かけました。

また、お孫さんの安倍晋三さん(現総理大臣)とは、先に総理になられた折、「道州制と憲法改正」を打ち出した二〇〇六年九月の二カ月前、知事会で道州制をつぶした私に、県知事を辞職せざるを得なかった日になった、という不思議な因縁もありました。

それはさておき、六〇年安保の後、法学を学ぶ一学徒

として励みました。ゼミは、極端裁判で日本の立場を理解して弁護した占領軍の軍人ブレイクニ先生など、良き友、良き師に恵まれ、一年遅れたとはいえ、希望の就職先も決まり、一九六二(昭和三十三年)三月卒業となるわけでした。ところが、その頃父は大企業の資本を入れ、新会社の設立を決めていました。しかも、新会社の創立総会は二月二十二日になつていてというのです。

このため父は、研修やら組織づくりやらの東奔西走で、不眠不休の毎日でした。私は結局、希望の就職先をあきらめ、父の会社に入社することとしました。後継ぎに過ぎないのですが、小さい会社ながら新会社の創立から携わることができたのは、私にとっては幸いなスタートになりました。

|| 続く

\*題字は、石川進さん(本誌「私の博物誌」執筆)



岩波書店の創業者、岩波茂雄氏もこもった東大・野尻湖寮で行われた東大サークル(ESS)夏合宿でのひとコマ=前列右が私、左隣は双葉高校出身で元フィリピン、アルジェリア大使を務めた荒義尚氏

ところが集まったのは、田議員と私の二人だけ。今さら逃げ出すわけにも行かず、たつぷり一、二時間、岸さんの話を拝聴して頂きました。さすが、昭和の妖怪と呼べただけの人だなあ、と新人議員の私は、その信念とオーラの強さに学ぶところもありました。娘婿にあたる安倍晋太郎さんは、私が県知事選に出馬する時、自

### 著者プロフィール 佐藤 栄佐久 (さとう・えいさく)

1939(昭和14)年6月24日生まれ。福島県郡山出身。県立安積高校、東京大学法学部卒。青年会議所活動などを経て83年の第13回参議院選挙に自民党公認で出馬、当選。88年、参議院議員を辞職して同県知事選に出馬、以後、5期連続当選。

知事在職中は、教育、環境問題に尽力する一方、東京一極集中、道州制などについて否定、さらに、政府、電力会社が進めるプルサーマル計画の導入についても反対を唱えるなど、「戦う知事」として県民の人気を集めた。ところが、県発注のダム工事に伴う「汚職事件」に関与したとされる実弟の逮捕によって、県政を混乱させた責任をとり、2006年9月、5期目の任期途中で辞職。その後、自身も逮捕される。12年10月、最高裁は弁護側、検察側双方の上告を棄却、懲役2年・執行猶予4年の最高裁判決が確定した。

☆ ☆  
\*高裁の判決は、「有罪」とする前提がすべて崩れているにもかかわらず、「無形のわいろ」や「換金の利益」といった従来の法の概念にはない不思議な理論と論法で「有罪」とした。この結果、「罪自体が不明」とし、「冤罪」を指摘する声も大きい。

著書に、『知事抹殺—つくられた福島県汚職事件』などがある。現在は、全国各地で国の体制・体質、原発問題などについて講演活動を展開中。

美しい写真とともにおくる、いわきのしられざる歴史と文化。読み終えたあと、いつもの風景が違って見えてくるはずです。

写真/アクアマリンふくしまの夜景(撮影・赤沼博志)

大好評  
発売中!

歴史春秋社 TEL.0242(26)6567 FAX.0242(27)8110

オールカラーでおくる、まるごと1冊いわきの本

# いわき

◆オールカラー/158頁 定価/2,100円(税込)